

いきたいと考えている。

安心して暮らせるまち
CIVILIZATION

議員 団塊世代の人が10年後には75歳になる中、生活道路の整備、土地改良や農地への進入路拡幅などの農作業環境整備は不可欠である。予算の増額、環境整備などについてたずねる。

市長 本年度は、道路河川整備については、早期に市民要望にこたえるため、配慮した予算計上とした。今後も引き続きコスト削減等により、少しでも多くの道路や土地改良施設の環境整備の実現に向けて努力していく。



仁科文秀議員

市民との協働のまちづくり
CIVILIZATION

議員 市全域を視野に入れた横断的な活動も必要ではないか。市全体の市民との協働のまちづくりの活動については、どう考え、どのように取り組むのか。

市長 地縁組織と志縁組織との交流の機会も設けている。今後、地縁組織との協働のみならず、志縁組織との協働や、地縁組織と志縁組織との協働も積極的に推進していく。

財源確保について

議員 土地・建物・設備などに対し、経営的な視点から設備投資や管理運営を行い、経費の削減を図ったり、施設効用の最大化を図る活動をファシリテイマネジメントというが、この活動に対する考えをたずねる。

市長 このような手法で、



本市の財産の一元的な管理運営を進めていけるよう、先進地の取り組み状況を参考にしながら研究し、取り組んでいきたい。

学校と地域住民との関係について

議員 少子化が今後急速に進み、校舎が使われなくなったり、空き教室が増えることが予想される。地域住民にとって有効に活用できる方法は考えられないか。

教育長 防犯面などを考慮しながら、学校経営に支障のない範囲で、児童・生徒と地域住民とがともに学ぶ場として活用ができればと考えている。

大月隆司議員

観光・地域資源の活用
CIVILIZATION

議員 本市の観光・地域資源の利活用の状況について、どのように分析し、今後活用しようとしているのか、現状と課題をたずねる。

市長 本市には、豊かな自然環境や文化・歴史など観光資源がある。しかし、これらを多角的に活用し、マネジメントすることができていないことが課題である。

「かさおかブランド」について

議員 認定後の笠岡ブランドの利活用について、市・認定事業者の役割はどのようになっているのか、現状と課題をたずねる。

市長 道の駅がオーブンしたことで、笠岡ブランドとして一カ所で販売することが可能となった。課題は、ブランドの戦略を持たないと、地域間競争に勝てない

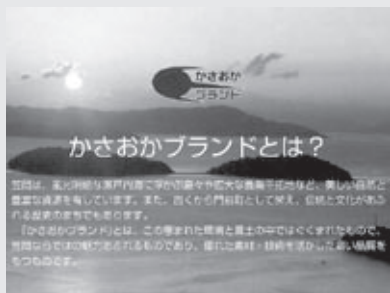
ということがある。

耕作放棄地の解消に向けた取り組みについて

議員 休耕地や廃業後の農家の施設を利用したコミュニティビジネスについての可能性と、今後の耕作放棄地解消に向けた取り組みについてたずねる。

市長 地域で農地を守り、都市と農村との交流や地域ブランドづくりの場として農地を活用し、地域活性化に結びつけるような新たな手法が必要であると考えている。

ほかに★西備支援学校施設の地域開放について質問しました。



かさおかブランドのパンフレット